



津市一身田町2843
高田中・高等学校内
樹心会事務局
電話 059-232-2442



開校、
百四十年の節目
同窓会会長
佐脇 功

皆様にはご清祥のことと存じお慶び申し上げます。各地各界で大勢の同窓会員が活躍されていることは誠に喜ばしい次第であります。平素から同窓会の運営並びに母校の発展にご理解ご支援を賜っていただきますことに厚くお礼申し上げます。



ご挨拶
学苑長
高臣 文祥

同窓の皆様にはお変わりなくお元気で過ごしてのことと存じます。今年の会報では、まず、昨年の叙勲で田中前学苑長先生（現学苑名誉顧問）が、瑞宝小授章を受けられましたことをご知らせいたします。長年にわたっての私学教育におけるご功績が評価されたことによるもので、大変おめでたいことでした。学

母校の近況は、学苑長先生はじめ諸先生方からご案内されています。校舎等の施設設備の整備充実並びに部活動、進路指導など教育内容にわたる著しい文武両道の発展を続けていることは、この上ない喜びです。歴代学苑長・学長・校長先生、諸先生、教職員の皆様方に敬意を表するとともに今後とも継続的に発展されることを念願いたします。本年四月六日（十六日）に高田本山において「聖人のみもとに帰ろう」の基本理念のもと開山聖人七百五十回遠忌報恩大法会が厳修されました。

多くの同窓生もご参詣され、また、「仏教福祉を考える」と「親鸞聖人の御生涯を再考する」のシンポジウムを柱として催行された数々の行事にもご参加されたことと存じます。「仏教精神を基として宗教的情操を培い、人間性豊かな社会人を育成する」ことを建学の精神としている母校、高田学苑は真宗高田派の宗門立学校であり、母校にとりまして本年は大きな節目の年であります。学苑は明治五年を開校の年と定めていた。本年は開校百四十年の節目にあたる祈念すべき年です。歴史を溯れば寛保元年（一七四一年）、真宗高田派専修寺末寺僧侶の研修道場として、専修寺第十七世円猷上人が本山学寮で宗典講義をされたことに始まります。明治五年（一八七二年）以降一般子弟も收容し教育指導を行つた。これをもって明治五年を開校の年と定めている。県内で最初に開校した中学校は、

明治十三年一月開校の津中学校（津藩校有造館の敷地・造営物を授受して開校、後に三重県尋常中学校、第一中学校、県立津中学校と改称、現津高校）続いて明治三十二年、同時に三校を開校、第二中学校（後に富田中学校、現、四日市高校）第三中学校（後に上野中学校、現、上野高校）第四中学校（後に宇治山田中学校、現、宇治山田高校）です。このことから母校は最も古い歴史と伝統を保っています。この古き良き輝かしい伝統のもと一層の発展にご尽力された前学苑長田中和磨先生は平成二十二年三月、ご勇退されました。学苑の施設・設備の拡充整備、六年コースの設置など短大を含めて教育内容の充実に努められ、社会に貢献できる幾多の人材を育成されました。先生は先見性、柔軟性、決断力、実行力を十分に発揮され学苑経営に尽瘁されました。ご功績は偉大で、比類ない稀有な校

長先生、学苑長先生であられたと崇められています。平成二十三年秋の叙勲で瑞宝小授章をご受章されました。本年七月七日に先生のご受章を称えて学苑、同窓会が共催して盛大に祝賀会が開催されました。同窓会員数は年々増加の一途で県内最大規模です。各地各界それぞれ職域職場で同窓生が多数活躍しています。同窓生が多いからといって先輩後輩を問わず甘えることなく威張ることなく、自信をもって真摯な勤務に徹したいものです。そして情報を共有して、より一層、一致団結して相互の絆、親睦を深めるとともに活躍を期待します。母校に勧められている同窓会員の皆様は母校愛の精神のもと、母校の教育を支えているという自負心を持ってご精進ください。八月五日（日）の総会・親睦会には、お誘い合わせて大勢の皆様が参加されますようお願い申し上げます。

苑としてもこの慶事に際して、今年二月七日にアスト津におきまして、各方面からたくさんのご来賓のご臨席を賜り、学苑の教職員も多数参加して盛大に祝賀会を催したところで、改めて先生のご功績に敬意を表す次第です。次に、今年は親鸞聖人の七百五十回忌にあたり、高田本山では四月六日から十六日まで遠忌法会が厳修されました。学苑でも生徒、学生、教職員が三日にわたって本山御影堂に参詣しそのご縁に会わせていただきました。高田学苑は聖人のみ教えに基づいた宗教的情操の涵養を建学の精神と

していることは改めて申し上げるまでもありません。しかし、近年、経済至上主義や競争による効率万能主義の社会風潮が、数値目標や成果主義などの形で教育界にも及び、教育の本来の姿がゆがめられているように感じられる現状があります。このような風潮の中で本学苑の教育理念はますますその重要性を増してきています。私たちは、その理念をしっかり胸に入れて「高田の教育」に取り組んでいかなければならない、そして、そのことが、現在の社会に真に求められている教育であるという思いを強くしています。現在、学苑では生徒や学生たちが、

仏教精神という見えない「お育て」の力につつまれた、穏やかな雰囲気の中で安心して学業や部活動に取り組んでおり、それぞれが自己の可能性を十分に発揮してくれていると感じて喜んでいきます。学苑の現況につきましては、昨今の私学を取り巻く厳しい環境の中ではありますが、おかげさまで現在の所、中高、短大共に概ね順調に運営されておりますのでご安心下さい。詳しくは学長、校長が報告いたします。また、ホームページなどで確認下さい。数年後には一段と少子化が進むことが予想されているなかで、学苑の

この状態を今後にもつて持続していくために、教職員が協力し、生徒や学生、保護者の皆様の期待に応えられるよう一層の努力をして行く所存です。どうか同窓の皆様方にはこれからの学苑を見守っていただき、さらなる発展のためにご支援を賜りますことを切にお願い致します。尚、昨年は初めて樹心同窓会総会の会場をアスト津に移して開催しましたところ、大勢の同窓の皆様方にお集まりいただき、楽しく歓談の一時を過ごすことが出来ました。事務局の努力に感謝すると共に今年も昨年以上の方が参加されることを期待しています。



ご挨拶

中高校長
梅林 久高

皆様におかれましては健勝で活躍のこととお喜び申し上げます。日頃は本校の発展と教育方針にご理解ご支援を賜っていること深謝申し上げます。この三月には卒業生五六二名(三年生三七〇名、六年生一九二名)がさらなる自己実現を目指して卒業して行きました。春には新入生中一は二〇三名、高一は四二五名、四年生二一七名を迎え、在校生合わせて二四二二名・六十四クラスで新学期がスタートしました。環境の整った校舎で活き活きと学習にクラブにて頑張っています。そして先輩諸氏が築いて下さった伝統を



新しい学科が
スタートします

短大学長
栗原 廣海

本年は、四月六日から十六日までの十一日間、本学の母校である高田本山で、開山(親鸞)聖人七百五十回遠忌報恩大法会が勤修されました。

十二日(木)には、本学の学生と教職員が参詣し、満堂となった御影堂で「真宗宗歌」「念仏」を歌い、「歎仏偈」をお勤めして学長が法話をいたしました。全員が御堂の荘厳な雰囲気の中に溶け込み、「一所懸命歌い、お勤めし、聴聞した体験は、五十年に一度の得難い体験として、一人ひとりの胸に強く焼き付けられたのではないかと思います。この御遠忌を機縁として、改めて本学苑の歴史が、今から約二百七十年前

受け継ぎつつ、進学にも部活活動にも好成績を上げています。さらに日常生活においても高田中学生、高田高校生であるとの自覚をもって学校生活を充実しています。

三十代のある卒業生が来校したときの会話。「ノルマも多く、お客さんとの対応も大変でしょう」と言ったら、即座に彼は「高田魂があります。どんなことがあっても辛抱して頑張り抜くことを教えられました」と応えてくれました。在学中に本山参詣や降誕会、追甲会で勤めた「光顔巍巍」と始まり、「我行精進 忍終不悔」と結ぶお経の句が重なりました。彼の言葉によって大切な精神が涵養されていたことを嬉しく思いました。同窓生の諸氏が各方面で高田スピリットを発揮されて活躍されていることに敬意を表します。奇しくも六月の中日新聞には、連日二人の卒業生の活躍が掲載されました。鈴鹿墨の伝統工芸士伊藤亀堂氏(本

の高田本山学寮での講義に始まることに思いを馳せ、「仏教精神に基づく人間教育」の建学の精神と、「やわらかな心の社会人の育成」の教育の理念を再確認しながら、常に原点に立ち戻って本学の教育を見直し、改善していかなければならぬと思いを新たにさせていただきます。

さて、本学の教育の見直し、改善の一環として、人間介護福祉学科とオフィス人材育成学科の二学科を統合し、平成二十五年度より「キャリア育成学科」を開設することになりました。その目的は、地域社会から求められている人材の育成をより強化することです。本学が平成二十一年度文部科学省の「大学教育・学生支援推進事業」のうち、テーマBの「学生支援推進プログラム」に応募して採択され、「キャリアアカルテを用いた生涯就職支援システム」の構築を進めました。これは、昨年にもご報告しましたが、この事業の

名、忠四十七歳(鹿市在住)は、昨年キャリア教育の講師として講演に来て頂きました。伊藤氏は書道の道具を作る全国の四製道者でつくる「文房八房プロジェクト」の委員会の代表を務め、今年この会が経済産業省の支援事業に採択。伊藤さんは鈴鹿墨の伝統を守り、そして書道文化を世界に発信していきたいと取り組んでみえます。

草川徹氏(六十九歳(鹿市在住))は大の書真愛好で芸術家。過去にも二科展に入選の経験をお持ちです。今回、日本写真協会が開く写真展JPS展に五回目の入選を果たされました。鈴鹿あかりフェスタで撮影された作品「少女と伝灯」は、大変に幻想的で温かいぬくもりが伝わってきます。諸氏の活躍の姿は同窓生、在校生にとって嬉しく誇りであり、大変励みになります。勇気づけられています。さて、今年度より樹心同窓会の役員会にて高体連、高文連の大会、それに

中で、本学が教育のありようを模索する一環として、学生の就職先である幼稚園・保育所・諸施設・企業等に、どのような能力・資質を採用する人物に求めているかについて調査を実施しました。その結果、地域社会から求められている人材は、「会話(コミュニケーション)力」「考える力」「チャレンジ精神」「一般常識」「笑顔で挨拶ができる」「自己研鑽し、努力を惜しまない」等の能力・資質を備えた人材であり、これらの能力・資質が、専門知識や技術・技術以上に重要視されていることがわかりました。

また、昨年十二月に、財団法人中部産業・地域活性化センターがまとめた「構造変化の中における大学教育のあり方」に「教養教育充実の視点から」においても、在学中に学生が身につけるべき能力・資質として、「コミュニケーション能力」「行動力」「社会人としての一般常識」「論理的思考力」を

準じた大会を勝ち抜き全国大会に出場する生徒に対して激励、支援する「激励費」を頂くことを決定していただきました。佐協会長はじめ役員の方々並びに同窓会の皆様に厚くお礼申し上げます。

現在、中学運動部十一・文化部十二・高校運動部二十・文化部二十四のクラブがあり、日々練習に励んでいますので、この「激励費」の支援は今後のクラブ活動により弾みになると確信しています。少子化が進み、さらには経済状況の動向や県立の授業料無償化等の影響を受けて生徒募集も厳しくなりつつありますが、昨年度より導入しました本校独自の授業料等生徒納付金助成制度も順調に運用されています。また、津波対策をはじめとする防災対策も、本校の位置する一身体域は海抜約四メートル未満と低いですし、地域住民の方々の第一避難所に指定されているこ

挙げ、企業が期待する人材として、「状況変化に柔軟に適応できる人材」「発想力、創造性豊かな人材」「多角的な視野と幅広い教養を備えた人材」を挙げています。これらの調査は、「地域から求められている人材」を育成するためには、いわゆる「人間基礎力」を培うことが重要であることを明示しています。このような結果に鑑み、オフィスワーカーや介護福祉士としての専門性はもとより、「人間基礎力」を身につけた人材を、一貫して、より強力に育成するために、本学では来年度から、人間介護福祉学科とオフィス人材育成学科を統合して「キャリア育成学科」を開設し、この中に「オフィスワークコース」と「介護福祉コース」を設置することになりました。学生一人ひとりが、建学の精神・教育理念に基づいて「人間基礎力」を培うことを最重要課題とし、その上にそれぞれが描いたキャリアの

とからも生徒、近隣の皆様の安全を守ることができるようその対策に取り組んでいます。さらには、昨今は子ども達を取り巻く環境やネット社会の激しい変化は、様々な影響を与えています。自己肯定意識を高め、主体的に社会規範や公共のマナーをより身につけていくために色々な角度から指導を展開しているところ。その一つに学校と家庭・保護者の方々との連携と共有をより強くはかるためにもホームページのリニューアルをしましたのでご覧頂ければ幸いです。

様々な課題はありますが、危機意識を持ち保護者の皆様から安心と信頼される学校作りを目指し、生徒一人一人の無尽蔵の資質を開発させ、あらゆる困難や苦難を乗り越える精神力、自他共に思いやりのある子どもを育てて行きたいと思っております。

実現に向けて、専門知識や技術・技能を身につけることを支援するのが「キャリア育成学科」の教育の目的です。「人間基礎力」が求められているのは、保育の世界においてもまったく同様です。子どもが学ばなければならないことは、これまでどおり独立した学級ですが、教育内容におきましては、キャリア育成学科と同じ理念に基づき、「人間基礎力」の上に保育の専門性を身につけた保育者を育成すべく努力いたします。

十八歳入力は年々減少し、新入生の募集は厳しさを増しています。本学が、建学の精神と教育理念にもとづきながら、地域社会からの要請に応える人材を育成するにはどうすればよいかを課題として教育改革を怠らなければいけません。このことをアピールしつつ、今後の発展に向けて前進していく覚悟です。樹心同窓会会員の皆様、変わらぬご理解とご支援を今後とも賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

- 一、鹿島 涼
- 二、仏教
- 三、なし
- 四、旅行、犬の散歩
- 五、本年度より、ご縁をいただき母

中・高等学校

- 一、氏名
- 二、担当教科
- 三、担当部活動
- 四、趣味・特技
- 五、着任のことば

新任教職員紹介

校の高田学苑にてお世話になることになりました。大変嬉しく思うと共に身の引き締まる思いです。着任してから早二ヶ月が経ちます。まだまだ至らないことばかりですが、諸先生方の温かいご指導を賜りながら、勉強と反省の毎日を送っております。生徒の笑顔に背中を押され元気をもらっています。まだまだ未熟ではありますが、今後とも御指導のほどよろしくお願

い致します。

一、草深 幸
二、理科
三、中学校軟式野球部
四、シヨッピンゲ
五、今年度より、県下で最も古く輝かしい伝統を誇る高田学苑で教師をすることができ、とても感謝しています。

私は大学院で素粒子論を学びました。素粒子の大きな目標として、自然界の重力、電磁気力、強い力、弱い力を一つの力に統一することがあります。私はその中の湯川博士が研究の端緒を拓いた「強い力」の計算方法が確立していない領域

にある問題について研究しました。物理のおもしろさを伝えられるような授業ができるようになりたいのです。まだまだ周りの先生方に助けられてばかりですが、今後ともご指導のほど宜しくお願

一、黒宮 啓子
二、家庭
四、園芸
五、この度、本学苑で教鞭をとらせていただくことになりました。

一、名章 信成
二、日本史
四、切手・古銭の収集
五、四月から高田高校で非常勤講師

平成24年度

高田学苑樹心同窓会総会

平成24年 8月 5日(日) 午後 3時～6時

総会 アストホール (津駅前アストプラザ 4階)

懇親会 ホテルグリーンパーク津 (津駅前アスト津内) 6階 伊勢の間・安濃の間

○総会・追弔会

○講演会 桜美林大学 阿久根教授

“足下から健康を考える～転ばぬ先の足づくり”

○懇親会

※会費、3,000円当日受付で頂きます。

※お車でお越しの方はアスト津駐車場をご利用ください。

※お酒が出ます。飲まれる方は、お車での参加をご遠慮ください。

平成23年度高田学苑樹心同窓会決算報告書

収支決算書 (H23. 4. 1～H24. 3. 31)

(円)

項目	金額
収入の部	
前年度繰越金	4,036,770
株式配当金 (中部電力)	457,560
株式配当金 (みずほフィナンシャルグループ)	33,480
総会会費	432,000
同窓会入会金 (高校)	1,967,000
同窓会入会金 (短大)	724,500
卒業証書丸筒代金	89,947
預金利子	361
収入合計	7,741,618

支出の部	
総会費	1,293,819
会議費	111,000
会報発行費	465,534
通信費	15,874
慶弔費	202,900
卒業証書丸筒	84,777
卒業記念品費 (高校)	242,193
卒業記念品費 (短大)	96,558
同窓教職員歓迎会補助金	159,225
短大同窓会補助金	12,900
寄付金	1,000,000
事務消耗品費	75,896
支出合計	3,760,676

収支差額次期繰越

3,980,942

財産目録 (H24. 3. 30現在)

(円)

項目	金額	
基本財産		
百五銀行定期預金	2,011,222	
百五銀行定期預金	1,414,844	
百五銀行定期預金	1,503,722	
	単価	時価
株券 中部電力 (8,200株)	1,494	12,250,800
株券 みずほフィナンシャルグループ (4,000株)	135	540,000
運用財産		
百五銀行普通預金	3,980,942	

信頼に満ちた雰囲気、学苑の全てが歴史と伝統に満ちあふれていると感じました。

この一年間、微力ではありますが「人間性豊かな社会人の育成」の精神を、家庭科教育を通して、充実した授業の実践に心掛けていきたいと思

います。

どうかよろしくお願

としてお世話になっていきます。

県立高校教諭として(紀伊)長
島高を振り出しに、四日市農芸
高・白子高・四日市南高と転動し
て、今年三月四日市西高を最後に
退職しました。県立高校で培って
きた経験と知識を少しでもお役に
立てられたらと思っています。初
心に還って一からまた積み上げて
行きたいと思えますのでよろしく
お願い致します。

短 大

わかりやすく、より楽しく、より
深みのある授業を目指して精一杯
努力していきたいと考えておりま
す。高田本山の寺内町で生まれ
育った者として、少しでもお役に
立てたらと思っています。どうぞ
よろしくお願いします。

一、梶間 稔

二、事務局キャリア支援センター

三、なし

四、読書

五、偶然とはいえ、親鸞聖人七五〇
回御遠忌の年に本学苑にお世話に
なることができ、大変嬉しく思っ
ております。

緑に囲まれた高田短大のキャン
パスで学生たちの明るさと元気さ
に励まされ、数ヶ月経ちました。
発展し続ける本学の充実した学
習環境を基に、力強く社会に羽ば
たく人材の育成のため、キャリア
支援に精一杯努めたく存じます。

ご指導、ご協力を宜しくお願
い申し上げます。

一、小菅千恵子

二、保育内容・環境、子どもとあそ
び、家庭支援論

三、なし

四、観劇、花づくり

五、公立保育園退職後、子育て支援

に関わっていましたが、ご縁が
あって今年度より、子ども学科で
お世話になり二ヶ月がたちました。

私にとっては初めての授業に、
保育現場で子どもや保護者との関
わりを通して学んだことを事例と
して紹介、保育者のイメージがわ
くように努めています。二年間の
限られた中で、子どもの心に寄り
添い、人間性豊かな保育者の養成
に、微力ながら力を注いでいきたく
と思っています。

今後とも、ご指導ご鞭撻のほど
よろしくお願ひ申し上げます。

一、竹内 貴彦

二、入試広報課

三、なし

四、旅行、音楽鑑賞

五、本年度より高田短期大学でお世
話になることができ、大変嬉しく
思っています。

事務職員として着任し二ヶ月間
が過ぎました。まだまだ未熟で至
らぬ点が多く、ご迷惑をかけてば
かりですが、教職員の皆様に支え
られていると実感し、深く感謝し
ています。

本学苑に少しでも貢献できるよ
うに精一杯頑張りますので、今後
ともご指導のほどよろしくお願ひ
致します。

一、徳山 貴英

二、人間関係Ⅱ、基礎生活支援技術

Ⅱ、認知症の理解Ⅱ、人間福祉基
礎演習、人間福祉特論Ⅰ・Ⅱ

三、なし

四、フットサル・サッカー

五、この四月より高田短期大学人間
介護福祉学科にてお世話になって
おります。私は平成七年度高田高
校卒業生であり、ご縁に恵まれ高
田学苑でお世話になることになり
ました。大学等での教育経験はご
ざいませんが、福祉現場での介護
福祉士・介護支援専門員の経験を
活かし、高齢になり障害が生じて
も、横に付き添い生活を支える専
門家である介護福祉士を一人でも
多く育成していきたいと考えてお
ります。

皆様のご指導・ご鞭撻のほどよ
ろしくお願ひ申し上げます。

一、福田 洋子

二、介護総合演習、介護過程演習、
心と身体の医学Ⅱ、心と身体Ⅱ、
人間福祉総合演習

三、なし

四、ダンス、スキー、旅行

五、この四月から人間介護福祉学科
でお世話になっております。

「やわらか心」の理念に基づき、
確かな知識と技術を身につけ、社
会貢献できる学生の育成に努めて
いきたいと思っております。未熟

者ではございますが、一生懸命努
めていく所存ですので、今後とも
ご指導、ご鞭撻をどうぞよろしく
お願ひ申し上げます。

一、寶來 敬章

二、教育原理、保育内容総論、保育
者論

三、なし

四、音楽鑑賞

五、四月より高田短期大学子ども学
科に着任いたしました寶來敬章で
す。教育社会学を専門としており、
アメリカの教育制度や学校選択行
動に関する研究を行っております。

担当する教科は実学的な内容とい
うよりも教育学といった学問的な
内容を担当しています。これらの
担当教科での学びを通して、学生
に「机上の理論」をどのように現
場で適用できるのかを伝えること
が出来ればと思います。

保育や保育者養成について実務
的な経験はなく、保育者養成に関
してはまだまだ勉強不足な点が多
くあります。皆様にはご迷惑をか
けることが多いかと思いますが、
何卒よろしくお願ひ申し上げます。



進路指導

高校進路指導部

平成23年度生は、3年制I類192名、II類178名、6年制192名、計562名が卒業しました。平成23年度入試の合格者数と就職決定先を既卒者を含め、次表の結果を得ましたので報告します。

平成24年度入試進路状況 -平成24年 4月-

Table with columns for school type (e.g., 四年制大学, 文部科学省所管), category (I類, II類), and counts (小計, 合計).

進路状況

平成24年度入試における全体の進路状況(現役、浪人、6年コース、3年コースの合格者合計)は、次の通りです。

- 東京大学 18名(理科II類1名)
● 京都大学 13名(医学部2名)
● 大阪大学 14名(医学部3名)
● 名古屋大学 14名(医学部6名)
● 神戸大学 4名
● 一橋大学 3名
● 三重大学 33名(医学部22名)

6年制

Table showing 6-year program statistics: 24年度 (159合格者数), 23年度 (122), 22年度 (135), 21年度 (118), 20年度 (125).

3年制

Table showing 3-year program statistics by school type: 国公立大 (11), 文部科学省所管大 (1), 私立大 (259), 短期大 (17), 各種専修大 (19), 就 (3).

最近5年間の合格実績

Table showing 5-year enrollment trends: 24年度 (159), 23年度 (122), 22年度 (135), 21年度 (118), 20年度 (125).

平成24年度入試の合格実績概要

Table showing 2024 admission results by school type: 国公立大 (11), 文部科学省所管大 (1), 私立大 (259), 短期大 (17), 各種専修大 (19), 就 (3).

※進学先大学の詳細については、「高田中学苑のホームページ」↓「高田中・高等学校」↓「進路指導室」をご覧ください。

中・高部活動

中・高柔道部

現在、Ⅲ年生2名 6年生1名 Ⅱ年生2名 5年生1名 Ⅰ年生男子5名女子1名の計12名で活動している。

【最近の試合結果】

- 三重県柔道選手権大会
男子団体.....5位
● 第44回三重県ジュニア体重別選手権
男子個人
100kg以下級 準優勝

中・高剣道部

剣道の理念は人間形成にあります。剣道を通して学ぶことは、本当に沢山あります。道場から離れたときに、それが身に付いているかどうか、試されます。当然、まだまだ、中学生も、高校生も未熟です。『指導者である前に立派な社会人であれ』私達指導者も、生徒達と共に、日々成長できたらと、思っています。

さて、今年は、高校生三十五人、中学生十九人と、お陰様で、道場は活気にあふれています。男子も女子も、インターハイを目指し、稽古に励んできましたが、男子団体が、3位に入賞したのみ、残念な結果となってしまいました。インターハイ予選当日、沢山の先輩方に応援来ていただき、感謝しております。また、休日にも関わらず、道場に足を運び、ご指導いただいた先輩方、本当にありがとうございます。今後とも御指導の程よろしくお願いたします。

【インターハイ予選の結果】

- 男子団体戦 第3位
先鋒 伊藤 達也
次鋒 上野祥太郎
中堅 伊藤 優太
副将 宮嶋 孝祐
大将 紀平 航佑
補員 花崎 燎
II 3 高橋 隆也

男子団体戦 優勝

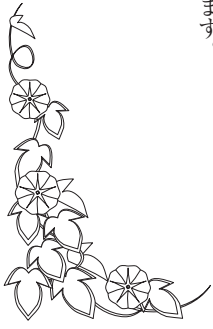
- 先鋒 六田 億人
次鋒 西脇 綾祐
中堅 三谷 恭平
副将 鎌田 航平
大将 生川凜太郎
補員 鈴木 慶祐
2c 豊住 亮太

中・高馬術部

全国大会出場をかけた東海予選が、6月17日(日)愛知県森林公園にて行われました。

全国大会出場へ12校中5校の出場枠に向け、限られた時間の中、整った施設を活かし練習に取り組みました。今回のメンバーは、3年生女子2名、2年生女子3名、1年生男子1名という、女子部員メインとなりました。実際、高校部員16名中、男子部員は1年生3名という現状です。

予選突破に向け今回の出場者として、昨年I年生ながら全日本高等学校馬術選手権大会 5位、山口国体少年団体競技 準優勝と結果を出しているII年生の青山と、中学馬術部創部メンバーである5年生丹羽、荒川で挑みました。結果は4校中上位2校が勝ち上がるBブロックにおいて、他校に大差をつけ本校のみ失格者なしという成績で1位通過出来ました。内容は、他校が失格している難しい馬を青山が1つのミスはあった



もののゴールを切ったことが大きく、丹羽は問題なく減点なしでゴール、荒川は一瞬ヒヤツとする場面はありましたが、荒川の気持ちに馬が答えてくれてゴールすることが出来ました。2年間、全国大会出場を逃し、悔しい思いをしてきたので、レベリックには全国大会出場は当たり前なのですが、顧問一同ほっとする気持ちとなりました。

また、続いて行われた全国大会個人戦の予選では、II年青山と5年丹羽が出場選手19名中4名の出場枠に向け出場しました。兩名とも1回戦を1位通過し2回戦へ、2回戦では兩名、今までの練習がいまいち発揮出来なかった中、青山は2位、丹羽は1位と兩名ともに決勝戦へ進むことが出来ました。この時点で全国大会出場枠は獲得しましたが、優勝を目指し顧問一同アドバイスする中で、兩名結果的に青山が優勝、丹羽が2位というすばらしい結果を残すことが出来ました。

夏休みに行われる団体戦、個人戦ともに全国大会にて良い結果を出せるよう、残された時間を充実したものにしていってほしいです。

なお、中学馬術部につきましても成長著しく、競技会においては次のとおり一般の方々に交じりながらも優勝、入賞が出来るようになっております。

クラブ名	成	績
馬術部	• STARTER CLASS II	第3位 池田 桜 (2-e) マラカイト号
		第2位 藤原 千裕 (2-e) マラカイト号
	• 小障害飛越競技C-I	第3位 亀井 大志 (2-d) フリスキー号
		第2位 西山 由華 (3-e) マラカイト号
		第1位 村木 拓 (3-c) マラカイト号
	• STARTER CLASS I	第1位 岡田 賢蔵 (2-d) ノーティス号
	2012新春三重県馬術大会	
	• 小障害飛越競技C	第3位 亀井 大志 (2-d) ポンティーノ号
	• 小障害飛越競技B	第2位 村木 拓 (3-c) ポンティーノ号
	• 小障害飛越競技C	第2位 村木 拓 (3-c) ポンティーノ号
なぎなた部	第25回三重県なぎなた選手権大会	
	• 演技競技	第3位 大萱 花穂 (3-f)
		第3位 紀平 知里 (3-b)
	• 試合競技個人	優勝 大萱 花穂 (3-f)
水泳部	第63回三重県中学校学年別水泳大会	
	• 男子1年生100mバタフライ	第1位 平野 直樹 (1-a)
	• 男子1年生200mリレー	第3位 平野・藤田・伊藤・阪本
その他	芭蕉翁献詠俳句	
	• 児童生徒の部 特選	石川 涼香 (2-a)
	「第十一回たんば青春俳句祭」	
	• 中学生の部 大賞	間瀬 琴美 (3-c)
	第57回青少年読書感想文	
	• 三重県コンクール地区審査 特選	玉木 佑季 (3-a)
	「平成23年度第57回青少年読書感想文コンクール入賞」 家族のかたち	
	• 優良賞	玉木 佑季 (3-a)
	「高円宮杯第六十三回全日本中学校英語弁論大会三重県大会」	
	• 最優秀賞	平井 健斗 (2-e)
	• 最優秀賞	今田 翔子 (2-b)
	「第31回全国中学生作文コンテスト」	
	• 入賞	橋本 奈青 (3-a)
		新良 祐里香 (3-b)
		間瀬 琴美 (3-c)
国税庁主催「中学生の税についての作文」		
• 東海税務連絡協議会 会長賞	伊藤江理華 (3-b)	
「新エネ・太陽電池工作コンクール特別賞」		
• 特別賞	野呂 朱里 (3-c)	
第40回三重県小中学校書写教育研究会主催の競書会		
• 「友と語る夢」 校長会長賞	間瀬 琴美 (3-c)	
第32回三重県小中学校書初め展		
• 教育研究会賞	吉澤 杏季 (2-e)	
• 三重県知事賞	間瀬 琴美 (3-c)	
三重県「土の一句」		
• 中学生の部 優秀賞	松浦 信太 (2-b)	



クラブ成績表

クラブ名	成	績
陸上競技部	三重りレーカーニバル大会	
	• 中学男子走高跳	第1位 松岡 修平 (3-b)
	第57回全日本中学校通信陸上競技大会三重大会	
	• 中学男子走高跳	第1位 松岡 修平 (3-b)
	第33回東海中学総合体育大会	
	• 中学男子走高跳	第1位 松岡 修平 (3-b)
	第38回全日本中学校陸上競技選手権大会	
	• 中学男子走高跳	第3位 松岡 修平 (3-b)
	三重県ジュニアオリンピック陸上競技選手権大会	
	• 中学男子B走幅跳	第1位 早川 嘉彦 (2-d)
	• 中学男子A走幅跳	第1位 松岡 修平 (3-b)
	みえスポーツフェスティバル	
	• 中学女子3,000m	第3位 亀谷 美帆 (2-a)
	• 男子走高跳	第1位 松岡 修平 (3-b)
	• 男子三段飛	第1位 松岡 修平 (3-b)
• 男子総合の部	第6位 松岡 修平 (3-b)	
三重県教育委員会 表彰		
• 高田中学陸上部 優秀選手賞	松岡 修平 (3-b)	
剣道部	第36回三重県少年剣道練成大会	
	• 中学生個人男子の部 優勝	松本 大知 (3-d)
	第27回鳳凰旗争奪三重県中学校剣道優勝大会	
	• 男子個人	優勝 松本 大知 (3-d)
	第27回鳳凰旗争奪三重県中学校剣道優勝大会	
• 男子個人	敢闘賞 酒井 皓平 (3-f)	
馬術部	2011春季三重県馬術大会	
	• STARTER CLASS II	第1位 仲尾 拓朗 (2-a) マーメイド号
	• 小障害飛越競技C-I	第1位 西山 由華 (3-e) マラカイト号
	• STARTER CLASS I	第2位 仲尾 拓朗 (2-a) マーメイド号
	2011三重県馬場馬術競技大会	
	• 馬場馬術競技第2課目2009	優勝 村木 拓 (3-c)
	みえスポーツフェスティバル	
	• 小障害飛越競技C-II	第3位 西山 由華 (3-e) フリスキー号
		第2位 西山 由華 (3-e) マラカイト号
		第1位 仲尾 拓朗 (2-a) フリスキー号
	• 小障害飛越競技B	第2位 村木 拓 (3-c) ファブレット号
	• 小障害飛越競技C-I	第3位 西山 由華 (3-e) マラカイト号
		第2位 仲尾 拓朗 (2-a) マラカイト号
		第1位 仲尾 拓朗 (2-a) フリスキー号
	• STARTER CLASS I 競技	第1位 仲尾 拓朗 (2-a) ノーティス号
2011 ジャンピング イン ミエ		
• 小障害飛越競技C-II	第3位 亀井 大志 (2-d) フリスキー号	
	第2位 村木 拓 (3-c) マラカイト号	
	第1位 仲尾 拓朗 (2-a) フリスキー号	

平成24年度 高田学苑馬術部成績

2012春季三重県馬術大会

(平成24年 4月14日・15日)

三重県馬術競技場

*1日目

STARTERCLASS I

1位 池田 桜(中学3年) フリスキー

2位 奥山 拓(中学3年) ノーティス

3位 米川 知里(高校3年) ノーティス

小障害飛越競技C-1

1位 中尾 萌里(高校3年) マラカイト

2位 藤原 千裕(中学3年) マラカイト

3位 小藪 貴子(中学3年) フリスキー

フレンドリージャンプB

1位 奥西 雄生(高田学苑1年) ファブレット

小障害飛越競技C

1位 仲尾 拓朗(中学3年) フリスキー

小障害飛越競技A

2位 青山 里奈(高校2年) ポンテイノ

小障害飛越競技C-II

1位 藤原 千裕(中学3年) フリスキー

2位 池田 桜(中学3年) フリスキー

3位 中尾 萌里(高校3年) マーメイド

フレンドリージャンプA

3位 奥西 雄生(高田学苑1年) ファブレット

*2日目

小障害飛越競技B

2位 亀井 大志(中学3年) ポンテイノ

2012みえ馬場馬術大会

(平成24年 6月3日)

三重県馬術競技場

第3課目2009A

1位 丹羽 れい(高校5年) ヘヴンリイ

第3課目2009B

1位 丹羽 れい(高校5年) ヘヴンリイ

2位 村木 拓(高校4年) ヘヴンリイ

3位 青山 里奈(高校2年) エラン・パドロックス

第2課目2009

2位 米川 知里(高校3年) キャビンクルー

第46回全日本高等学校馬術大会

東海地区予選(平成24年 6月17日)

愛知県森林公園

*ブロックB 1位(全国大会出場)

高田高等学校(中尾萌里、米川知里、青山里奈、丹羽れい、荒川美鈴、村木拓)

第23回全日本高等学校馬術選手権大会

東海地区予選(平成24年 6月17日)

愛知県森林公園

1位 青山 里奈(高校2年) (全国大会出場)

2位 丹羽 れい(高校5年) (全国大会出場)

■中・高文芸部

文芸部では中学11名、高校22名が一緒に活動しています。

伝統ある文芸部ですが、三重県文芸連に加盟して他校文芸部との交流を始めたのは、平成20年度のことでした。翌21年には全国高等学校総合文化祭(以下略して全総文) みえ大会文芸部門に出場し、大会運営も行いました。22年度には、全総文みやぎき大会に2名が出場し、そのうち

一名は文芸部門全体交流会の「詩のボクシング」に、三重県代表として参加しました。そして、今年の大全文とよま大会には2名が出場します。

文芸部では年間何種類もの部誌を作成していますが、全総文みえ大会に出場して以来、質の高い、しっかりとした部誌を作成したいという思いが強まり、毎年夏に「零改」という部誌を作っています。部員がゼロから生み出した作品集「零」は部員

同士で読み合って批評会を行うための部誌でしたが、その批評会での批評を踏まえて推敲を重ね、できあがった作品を一つの冊子にまとめたものを「零改」としました。目次にはそれぞれの作品のキャッチコピーを考えて載せるなど、部員たちでアイデアを出し合って創意工夫を重ね、楽しく作り上げています。このような部員の思いが詰まった部誌を全国大会に持っていることはこの上ない喜びです。

大会では他県のたくさんの方々の部誌を見て学び、よりすばらしい部誌が作られるように今後も努力していきたいと考えています。「零改」を創刊してください

■中・高鉄道研究同好会

私たち鉄道同好会の主な活動は、夏休み等に部員でテーマを決めて各方面に遠征に行きます。昨年は東京へ行ったり、近場の名松線を調べに行ったりしました。普段は、学校近くで個人が見つけた撮影場所で電車を撮ったり、見たり、部室では撮影報告や、鉄道の情報交換をしています。休日には、名古屋や大阪へ

撮影に出向きます。最近の主な行事は、第一回鉄研甲子園に部員4人で参加しました。結果はあまり良いものではありませんでしたが、高校3年生4人(6年3名・3年1名)で

出場したので、鉄研として最後の思い出になったと思います。もう一つは、近鉄まつりin塩浜です。毎年恒例のイベントに今年も部員で行きました。早朝から列に並び、各々の欲しいグッズ、部品を購入したり、いろいろの見学してました。

文化祭では、鉄道模型の運転展示や夏休み遠征の活動レポート等を毎年展示しています。鉄道模型は部員が所有しているものを持参して合わせ、大きいレイアウトにして車両を走らせています。滅多に大きな部屋で作ることができないので、毎年楽しみにしています。この展示は部員だけが楽しむだけでなく、先生方も一緒に夢になり、いつの間にか鉄道の話題で盛り上がりがあります。

私たち同好会は部室が共同で環境は充分ではありませんが、本当に鉄道が好きな人で盛り上がりつつある部活動なので、充実しています。これからも

■中・高囲碁同好会

現在、中学が男子2名、高校が6名(男子5名、女子1名)の部員と、2人の顧問で活動しています。部室は将棋部と共有しています。時には将棋部の部員や顧問の先生とも囲碁対局しています。高校の部長である栢原悠樹君は、昨春秋に開催された高文祭囲碁部門十三路盤選手権大会で第3位に入りました。さらに今

春の三重県高校囲碁選手権大会団体戦において、堀 健太郎君、長井貴彦君、塚脇英嗣君の三人は、準優勝というすばらしい結果を残しました。

また全部員は、県囲碁連盟主催段位認定大会にも積極的に参加し、棋力向上を図っています。

■中学野球部

僕たち野球部は7人の3年生を中心とし、17人の部員で活動をしています。練習はバッティング、ノックを主にしています。大会では、1回戦は突破はするものの、2回戦で負けて、なかなか勝ち進むことは出来ません。でも、僕は、大会が終わった後、悔しいという気持ちよりも皆でプレーし、みんなで応援し、みんなで盛り上がったことの嬉しさの方が大きいことを感じています。そういう気持ちになれるのは、やっぱり皆仲が良く、そんな弱い僕達のために一生懸命になってくれる先生方がいるからなんだと思っています。先生方のためにも、自分達の楽しい時間を伸ばすためにも、次の僕たち3

年生の引退となる大会で勝ち進んでいけるように、今まで以上に部活に真剣にとり組んで大会に臨みたいと思っています。もし、負けてしまったとしても、部活で学んだ「礼儀」や「思いやりの心」と、いつも「いけるぞ」と心強く励まして下さる齋木先生、優しく見守って下さる岩井先生、時には僕らを笑わせてくれながらも、厳しく指導して下さいる伊藤先生への感謝の気持ちを忘れずに、最高の仲間と共に笑って終えたいです。

■中学バスケットボール部

現在、男子26人、女子15人の計41人の部員と顧問4人(真岡康光・間瀬朋昭・川口裕美子・武内見曉)で活動しています。

ほとんどが中学校からバスケットを始めた生徒ですが、目の前の一勝をつかみとるために、チーム一丸となつて練習に励んでいます。

明るく元気に、周囲への感謝を忘れずに今年度も頑張っていきたいと思います。バスケットボール部をどうぞよろしくお願いいたします。

■中学サッカー部

今は、新1年生、10人をむかえ合計30人で練習をしています。

目標は昨年と同じ、県大会出場で、その夢をかなえることができなかった先輩達のためにも今年はその夢をかなえるために頑張りたいと思います。

しかし、その夢をかなえるのは簡単ではありません。今年の3年生は、初心者が多く、

最初の練習は練習といつてよいかも分からないくらい状態でしたが、下の学年からの押し上げや、OBの先輩方、先生方からの指導もあり、今ではちょっとずつだけれど、練習らしい練習ができるようになりました。

朝練は、遠方から通学している人も多いため、試合前以外は水・木・土の週3回となりました。けれど試合前になると、毎日練習をしています。

午後の練習は、キャプテンの僕が中心となつて練習をしています。僕もサッカーは小学校からやっていたものの、練習の指示をするということとは初めてだったので、最初はなかなか分からないことも多かったけれど、今ではいい指示ができるようになりました。

最近では、選手のレベルもアップし、練習内容も充実することで、毎日自分達の力が増えていくのがわかります。

しかし、サッカーに終わりはないので、最初の頃の気持ちを忘れず、精一杯努力していきたいと思えます。

■中学バレーボール部女子

私たち中学校女子バレーボール部は、3年生7人、2年生1人、1年生4人で毎日楽しく一生懸命練習しています。

いまは、このチームでの最後の夏の大会で県大会出場を決めることを目標に頑張っています。

私たちが今までバレーをやつてきて学んだことはたくさんあります。一つに、小学校のころは塾ばかり

で運動もほとんどしていなかった私たちが、毎日練習してきたことで心身共に成長しました。これによつて、何事もあきらめずに、できると信じて続ければ、必ずできるよになるということを学びました。

もう一つは、バレーボールは、みんな協力してするスポーツなので、声をかけ合うことや、相手のことを気づかうことの大切さを学びました。そして、みんなで一つになることで強いチームにも挑戦する自信ができました。

これらは、今までの私たちに欠けていたことだと思えます。部活動で学んだことを、これからの普段の生活にも生かしていこうと思います。

■中学ソフトテニス部

中学生生活を白球と共に

今年も新生生活を男女それぞれ二十人ほど迎えました。二年生は自分たちの練習時間を割いて、基礎トレーニングや素振りの指導に当たります。練習後はコート横の部室で先輩後輩の絆を深めます。昨年度から本山的コートは中学生が主に使用していて、以前に比べて恵まれた環境で練習しています。高校生のフォーム・打球マナーを勉強する機会が少なくなつたのは残念ですが、

大会は以前の津安芸地区から津市全体の範囲となり男子は十三校、女子は二十校で団体戦を戦います。戦績は昨年度津市民戦3位・秋の県大会個人戦出場(男子)と、限られた練習時間の中健闘しています。

先輩方、一度本山コートにもお立ち寄り下さい。ボールを打つ音、後輩たちの元気な掛け声・笑い声が聞こえてきます。

■中学なぎなた部

顧問 糸谷

【主な戦績】

・平成23年度全国少年少女武道錬成大会なぎなた競技

(H23・8・東京)

中学3年生個人の部

3位 紀平 知里

中学演技の部

優良賞 大萱花穂・紀平知里組

昨年度は、全国武道錬成大会で前述のように予想以上の成績をあげることができました。1年生の時より期待されながら、なかなか成績を残すことができなかった3年生でしたが、最後の全国大会で大きな成果をあげることができました。

本年は3年生3名、2年生3名、1年生3名で活動しています。先に行われた県選手権大会では、思うように勝てず、悔しい思いをしました。が、優勝はできなかったものの、上位入賞をはたした事と、試合内容が認められ、以下の5名が、三重県代表チームの一員として7月22日に山口県下関市で開催されるJOCジュニアオリンピックカップ全国中学生なぎなた大会に出場することになりました。

(団体の部) 渡辺絵未里・渥美麻奈
(演技の部) 後藤詩織
(個人の部) 北原可奈子

後藤香帆・後藤詩織組

全中大会では3年ぶりの5位入賞を目指して頑張りたいと思えます。又、11月には東海選手権が行われ3年生最後の試合となります。こちらにも、代表チーム入り、さらに、東海制覇を目指して稽古に励みたいと思えます。

■高校野球部

高田高校硬式野球部は選手が41人、マネージャー16人の計47人で日々顧問の先生方のもと活動しています。毎日夜遅くまでグラウンドで汗を流して練習に打ち込む選手たちの姿はとも輝かしく見えます。

今年のチームは、秋の大会で4年ぶりに県大会出場を決めることができました。残念ながら県大会は1回戦で敗退という結果に終わり、悔しい思いをしました。が、この県大会出場という経験は自信につながり、自分やチームに新たな課題を見つけてきつかけとなりました。

秋に得た自信を大切に、与えられた課題を克服するため、長い冬の練習をこなしてきました。甲子園というあこがれの舞台を夢見て、それが想いを野球にぶつけ、力を高めるよう努力を重ねてきました。

いよいよ3年生にとって最後の夏を迎えます。悔いの残らない夏にするために、また今まで支えて下さった顧問の先生方、保護者の方々、応援して下さい下さった方々に大好きな野球で恩返しができるようにするために、夏の大会は最高のプレーで一戦一戦臨んでいきたいと思えます。そして自分達の野球を信じて、全員で勝利を掴みたいと思えます。野球への想

いよいよ3年生にとって最後の夏を迎えます。悔いの残らない夏にするために、また今まで支えて下さった顧問の先生方、保護者の方々、応援して下さい下さった方々に大好きな野球で恩返しができるようにするために、夏の大会は最高のプレーで一戦一戦臨んでいきたいと思えます。そして自分達の野球を信じて、全員で勝利を掴みたいと思えます。野球への想

いが真っ直ぐな高田高校をぜひ応援して下さい。

マネージャー 白崎・服部

■高校卓球部

平成24年度三重県高校総体卓球競技兼全国総体兼東海総体三重県予選が行われました。結果は次の通り。

【シングルの部 中勢地区予選】

4月21日 津市体育館

男子シングルスでは、6b森田充俊ほか計17名が予選通過。女子シングルスはⅢ3東海史佳ほか計6名が通過しました。

【シングルの部 三重県予選】

5月3日・4日 県営体育館

男子シングルスでは、ⅢF大野哲郎が念願の初優勝。全国総体・東海総体の出場権を獲得しました。またⅢ4大森啓生が第5位で東海総体の出場権を獲得しました。

【団体の部 三重県予選】

5月26日・27日 県営体育館

男子団体は、県内で最も厚い戦力をもつ白子高校に1-3で敗れ準優勝。全国総体出場はなりませんでしたが東海総体の出場権を獲得しました。

女子団体は、大激戦の末第3位。東海総体の出場権を獲得しました。

全国総体は7月31日〜8月5日に長野県長野市で、東海総体は6月16日〜17日に岐阜県多治見市で開催されます。

■高校ソフトテニス部

私は初心者としてソフトテニス部に所属して、ソフトテニスを始めました。悩みや迷いもあったけれど、2年間の充実した部活動生活を過ごすことができ、ソフトテニス部であったことを誇りに思います。

ダブルスを中心のソフトテニスは、ペアがいて成り立つ団体競技です。だから、自分だけではなく周りのことをどれだけ考えて行動できるかが、試合で活きてきます。それを鍛えるための一つが、毎朝のコート整備です。きちんと整備されたコートで授業してもらうため、草取り、雨水取り、土ならしなど、部員で工夫して行っています。一見、単なるコート整備ですが、本当に心身が鍛えられました。平成23年の夏、新しく人工芝のコートを造って頂きました。おかげで、雨を気にせず、また照明を利用し冬でも6時半まで練習ができるようになり、大変感謝しています。

平成23年12月に行われた新人大会団体戦では、第三位を修めることができました。高校からソフトテニスを始めた2人を含む6人で、この様な榮譽を修められたことが本当に嬉しかったです。あの時の一本に懸けた皆の想いは、今でも忘れられません。それ以降、個人戦でも上位に入ることが出来るようになりました。インターハイ出場は逃しましたが、私の全試合が心と技の成長の証だと感じています。

この様な多くの経験ができたことを、両親や先生方に心から感謝したいです。最後に、諸先輩方の心温まる応援は本当に嬉しい限りです。是非学校へもお越し頂き、御指導、お願いしたいと思っております。

■高校硬式テニス部

硬式テニス部は男子40名、女子11名で日々の練習を行っています。平日は学校のコートと高田短期大学のコートを利用し、ストロークやボレー、スマッシュ、サーブ・レシーブの練習といった基本練習や西グラウンドの外周を走ったり筋トレをしたりといったトレーニングを行っています。休日は外部施設のコートを利用することもあり、練習内容は平日の練習に加えて試合形式の練習も取り入れています。

今年度も昨年度以上にたくさん1年生の入部がありました(男子34名、女子7名)。中学校までに硬式テニスを経験してきた生徒は少なく初心者が多いですが、7月や8月には県の大会が控えているのでそれらに向けてしっかりとトレーニングに励んでいってほしいと思います。

また、昨年度はこの夏の大会の個人戦で予選を突破し本戦に進むという結果を出しているのですが、本年度も結果が出るよう1、2年生に期待したいと思っております。

■高校陸上競技部

皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

私たち陸上競技部は現在、男子47名・女子23名の70名の規模になり、過去最多の人数で活動しております。

高校生になってから陸上競技をはじめた選手も20名ぐらいいます。また、各種大会で入賞してくる選手の中にも中学生のころは、特別な結果や記録を残している選手はほとんどいません。ところが4、5年前から高校2年生の秋から3年生になると県大会で入賞し、東海大会に出場したり、自己記録を大幅に更新していく選手がたくさん現れるようになってきました。確かにさまざまなレベルの選手がいる普通のチームですが、年間を通して強豪校との合同合宿では強い刺激を受けてくるたびに負けることなく、成長してきました。練習においても選手自身が考えて行動できるように頑張ってほしいこともひとつの要因であると思います。今シーズンも春先の大会から県高校総体、東海高校総体において例年並みの結果を残すことができている。

選手達は東海・全国で勝負したいという気持ちが年々増してきています。今年もあと一歩のところまで大会の切符に手が届くところまでは来たのですが、東海大会で6位以内という条件は簡単ではありませんでした。県大会で優勝する力がないと東海は突破できません。夢のままでは終わらせるのではなく、来年こそ目標を突破し同窓の皆様の良い報告ができるように精進していく所存です。また、秋シーズンでは国体の候補選手になっている4年生の松岡君の活躍や高校駅伝では準優勝ができるよう今までは違う形でチームづくりに取り組み「高田高校」の名前を轟かせたいです。

最後になりますが、今後ともご指導、ご支援の程よろしくお願い致します。

【主な戦績】

平成24年度県高校春季大会

男子走高跳 優勝

女子400m 準優勝

男子400mハードル 第3位

男子3000m障害 第4位

男子走幅跳 第4位

女子4x400mリレー 第5位

男子3000m障害 第4位

女子4x100mリレー 第6位

男子5000m Ⅲ年B組 奥野 成美

女子1000m Ⅲ年B組 後藤 真帆

男子7位 Ⅲ年1組 村川 竜也

女子8位 Ⅲ年1組 鶴間 雄貴

女子400mハードル 第8位 Ⅲ年F組 谷川 円香

平成24年度県高校総合体育大会

女子400m 準優勝

男子3000m障害 準優勝

男子走高跳 Ⅲ年1組 村川 竜也

男子走幅跳 4年f組 松岡 修平 第3位

4年f組 松岡 修平
女子200m 第4位

Ⅲ年F組 谷川 円香
女子4×400mリレー第6位

Ⅲ年F組 谷川 円香
Ⅲ年B組 奥野 成美

Ⅱ年1組 宮路 真由
Ⅱ年B組 徳田 涼葉

Ⅲ年F組 谷川 円香
Ⅲ年B組 奥野 成美

Ⅱ年1組 宮路 真由
Ⅱ年B組 後藤 真帆

Ⅱ年1組 宮路 真由
第7位

Ⅲ年1組 村川 竜也
第8位

【6位までに入賞した選手が東海高校総体に出場】

■高校水泳部
高校水泳部は現在男子19名、女子11名の計30名で活動しています。

5月末～9月末は学校のプールで、その他の期間は学校での筋力トレーニングと鈴鹿スポーツガーデンを中心とした外部プールでのスイム練習を行っています。

昨年度はこれまでと違い、桑名、桑名工業、いなべ総合、神戸、津高校と合同練習を定期的に行い、レベル別の練習でいろいろな先生方に指導をしていただきました。

同じレベルの選手と切磋琢磨できる機会をいただき、部員達も刺激を受けて練習することで意識も高くなり、いろいろな練習メニューを経験することができるようになってきました。

また、高体連の合宿にも参加し、レベル別のスイム練習の他にドライランドトレーニング、ストレッチ、アイシング、栄養指導もいただきました。

参加した県内の高校生全員が同じチームのメンバーとして練習に取り組めたことはとても良い経験になりました。

昨年度は、例年よりも泳ぐ機会がたくさんあり、しつかり泳ぎ込めたと思います。

その成果が今シーズン発揮されることを期待しています。

昨年度は高体連の試合において最高の成績が男子総合3位、女子総合4位で男女合わせて東海総体に14名が出場することができました。

今年度は男子総合2位、女子総合3位を、また1人でも多く東海総体に出場できるように、チーム一丸となつて頑張っていきたいと思ひます。

ご指導、ご鞭撻の程よろしくお願ひいたします。

■高校バスケットボール部
私たち高校バスケットボール部は、男子2年4人、1年18人、女子2年3人、1年10人、マネージャー2人で毎日活動しています。

練習は、水曜日以外は体育館で、水曜日は外練というところで、外周や筋トレをしています。

毎日、顧問の先生方に熱心に指導していただいて、そのご指導に応えようと、全員一生懸命頑張っています。

5月の初めに3年生が引退して、新チームになりました。

今年度は、男女ともに1年生が10人以上入部して、体育館も部室もにぎやかです。

は、人数が足りないため出来なかった練習も出来るようになりました。

新チームの目標は県大会に出場することです。

そのために練習はもちろん、遠征や練習試合をたくさんして、一つでも多くの試合に勝ってきたいです。

部員の数も多く、顧問の先生方も毎日来てくださいますし、マネージャーは気を配り、いろいろな仕事を要領よくこなしてくれます。

私は、このような恵まれた環境の中で、毎日目標に向かってチームが一丸となつて頑張ります。

先輩方、お時間と機会があれば、是非、練習に来てください。

お会いできるのを楽しみにしています。

(Ⅱ・5年女子 記)

■高校バレーボール部
私たちバレーボール部は、男子18名(Ⅲ年7名、Ⅱ年7名、1年4名)、女子18名(Ⅲ年7名、Ⅱ年4名、1年7名)で活躍し、仲間を思いやることをモットーに日々練習に励んでいます。

バレーボールを通じて、社会に通用するような礼儀やマナー、周囲への気配りなども学んでいます。

女子バレーボール部は、チーム一丸となり「何事にもあきらめず前向きに取り組むチーム」を目指しています。

時には仲間同士でぶつかり合うこともあります。

時には仲間同士でぶつかり合うこともありますが、必ず意見を言い、話し合うことで問題を解決していくことを心掛けています。

男子バレーボール部は、どの部活にも負けないぐらい明るく元気に練習をしています。

時には厳しく辛い練習もありますが、笑顔忘れず、あきらめず仲間とともに頑張っています。

私たちの目標は、男女とも県でベスト4。そのためには日々の練習の積み重ねなどを大切に、仲間を信じ、感謝の気持ちを忘れず頑張っていきたいと思います。

応援よろしくお願ひいたします。

■高校ハンドボール部
現在ハンドボール部は、3年生が引退し、男子17名、女子7名で活動しています。

昨年度行われたリーグ戦・ヤシマカップでは、男子は17チーム中8位、女子は(鈴鹿工業高等学校と合同チームで出場、以下の大会も同様)11チーム中8位という成績を残しました。

昨年11月に行われた新人大会では、男子は、四日市南高校と海星高校に敗れ、予選リーグで敗退しました。

女子は、四日市南高校と引き分け、川越高校、いなべ総合学園に敗れ、予選リーグで敗退しました。

今年1月に行われた選抜大会では、男子は、予選トーナメントで鈴鹿工業高等学校に勝ち、県ベスト8に入りましたが、白子高校に惜敗しました。

女子は、桑名高校に敗れました。

先日行われた県総体では、男子は、川越高校に敗れました。

女子は、いなべ総合学園に敗れました。

卒業生の皆様、もし時間を作っていただくと嬉しいです。

高田高校グラウンドまで足を運んでいただきたいと思っています。

【主な戦績】

平成23年度全国高等学校なぎなた選抜大会(日24・3・伊丹)

(団体の部)

知念高校0-0高田 代表者戦負け(個人の部)

丹羽 智子 2回戦進出
駒田華奈子 3回戦進出

平成24年度三重県高等学校総合体育大会なぎなた競技

(日24・5・本校)

団体・演技・個人 優勝

昨年年末の選抜大会では1回戦で優勝候補の沖繩知念高校と、しかも開幕試合で対戦する事となりました。

震災の為、大会自体が2年ぶりの開催であった事もあり、尋常でない緊張感の中、試合を行いました。

結果敗れたものの、代表者戦までもつれる白熱した試合となり、1回戦の好カードとして、審判の先生方や関係者の方々からおほめの言葉をいただきました。

この試合は今シーズンへ向けてのいい自信になりました。

先日の県総体では、個人優勝の渥美麻子、2位の丹羽智子、演技優勝の駒田華奈子・丹羽組、団体優勝の長友あゆみ、丹羽・駒田・渥美・湯川美咲・紀平知里・大萱衣穂がインターハイ(H24・8・11・13・福井)の出場権を獲得しました。

団体でのインターハイ出場は6年ぶりですが、選抜の経験を経に入賞目指して、頑張りたいと思います。

又、6月17日に岐阜(岐南町)で行われる

東海総体には個人6名・演技3組・団体が出場します。3年ぶりの総合優勝を狙い、それをインターハイへのステップにしたいと思っています。

■高校男子新体操部

新体操部です。本年度も部員一同、部活と勉強の両立を目指し、日々練習に励んでいます。今年度は1年生部員が7人入部し、総勢14人とこれまで以上の大所帯で活動しています。

新体操競技は、個人競技なら1分30秒、団体競技なら3分という時間の中で行われます。この短い時間の中で、今までの練習の成果を全て出しつくさなければなりません。当然ながら、競技は一回きりですので、たった一つのミスが明暗を分けることとなります。また、競技中は監督であってもアドバイスの声かけなどをすることはできません。選手はひたすら自分を信じるほかありません。従って、技術や体力も大事ですが、ここぞという時の集中力や緊張感に打ち勝つ精神力を磨くことに重点を置き、練習をしています。

さて、本年度の主たる大会といえます。6月の東海高校総体、八月に福井県で行われるインターハイがあります。本年度は昨年度に続き、四日市高校からライバル選手が出場してきます。個人競技のインターハイは県一人ですので、連続出場が途切れないように選手も必死の思いで練習しています。今年出場すれば、25年連続となる節目の年であるため絶対に負けられません。インターハイでの上位入賞も目指しています。

最後になりますが、新体操部OBの皆様の心温かな応援ありがとうございました。また、今後ともご支援の方、よろしくお願いいたします。

■高校バドミントン部

私たち高校バドミントン部は、男子21名、女子9名の計30名で活動しています。

昨年度の秋季大会では、団体戦においてベスト8に入り、女子は創部以来初のベスト4に入賞しました。決して技術や才能のある選手が揃っている訳ではなく、高校からバドミントンを始めた選手も多いので、日々努力して練習に取り組んでいます。

顧問である齋藤先生と天野先生には、いつも熱い指導をいただいています。特にバドミントンが専門である齋藤先生には、細かく、的確な指示をいただき、丁寧に指導をしていただいています。土日などの休日には、外部コーチの方々にもたくさん来ていただき、練習を見ていただいています。

普段は高田短大の体育館を借りて練習をしています。しかし、様々な部活がローテーションをして体育館を使用しているため、毎日体育館で練習できるわけではありません。そのため、短大の体育館が使用できないときは、公の体育館を使用させていただいたり、外で走ったり、トレーニングをしたりしています。決して練習環境が良いとは言えませんが、それをマイナスに捉えるのではなく、練習環境が良くないからこそ、

第36回全国高等学校総合文化祭(将棋部門)兼 第48回全国高等学校将棋選手権大会 三重県予選 平成24年 5月 6日(火)

Table with 7 columns: 部名, 競技, 年組, 氏名, 成績, 東海, 全国. Rows for 将棋部 (男子団体, 女子団体).

第46回全日本高等学校馬術東海大会 平成24年 6月 17日(日)

Table with 7 columns: 部名, 競技, 年組, 氏名, 成績, 東海, 全国. Rows for 馬術部 (個人(選手権), 団体).

第59回全国高校放送コンテスト三重県大会 平成24年 6月 17日(日)

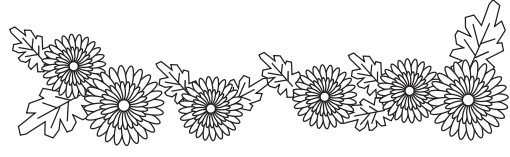
Table with 7 columns: 部名, 競技, 年組, 氏名, 成績, 東海, 全国. Rows for 放送部 (朗読部門, アナウンス部門).

第15回全国高等学校俳句選手権大会(松山俳句甲子園)津大会 平成24年 月 日(日)

Table with 7 columns: 部名, 競技, 年組, 氏名, 成績, 東海, 全国. Rows for 俳句部 (団体, 個人).

第62回三重県高等学校総合体育大会 東海大会・全国大会出場一覧表 平成24年 5月 25日(金)~27日(日)

Large table with 7 columns: 部名, 競技, 年組, 氏名, 成績, 東海, 全国. Rows for 卓球部, 演 技, なぎなた部, 個 人, 陸上競技部, 新体操部, 柔道部, 剣道部.



そのときできることに集中して、一生懸命取り組むことが自分たちの力になっていると思います。

そんな私たちの目標は「インターハイ出場」です。この目標に少しでも近づぐために、私たちが心がけていることは、「がむしゃら」です。たとえ、技術や才能が相手より劣っていても絶対に諦めない、常に心の中で唱えています。

「インターハイ出場」という目標を達成できるように、顧問の先生、外部コーチの力をお借りし、いつもお世話になっている方々に対する感謝の気持ちを忘れずに、練習に励みたいと思います。どうぞよろしくお願います。

■高校ソフトボール部

私達ソフトボール部は3年生5人、2年生3人、1年生7人、マネージャー2人で活動をしています。秋季大会の悔しさを糧に春季大会ベスト八を目指して全員で頑張ってきました。大変なことも辛いことも沢山ありましたが、一人一人が日々成長していき練習試合でも結果を残せるようなチームになりました。そしてこの春季大会、見事ベスト8に入ることができました。公式戦で結果を出せたのは初めてのことで、全員が勝っていくことの喜びを知りました。ソフトボールを本当に楽しみ、仲間を先生を信じ、全員で戦うことができたので勝つことができたのだと思います。私達は練習だけでなく、私生活の面でも三つの事を心がけてきました。それは挨拶、身だしなみ、ゴミ拾いです。しっかりとルールを守

り、周囲に気を配る、そんな一つ一つの小さな行動も試合に勝つことの大きな力になったのではないかと思います。

3年生最後の県総体はあつという間に負けてしまい部員全員悔いの残る試合でした。

しかし、最後の最後には笑顔がありました。私達はソフトボールを通して沢山の事を知りました。チーム競技だからこそ得ることができた大切な仲間、長い間指導して下さい、誰よりも一人一人を信じて下さった先生、支え続け応援して下さいった保護者の方々など、本当に沢山の皆さんに感謝しています。

私達は最後まで諦めない強さや、全員で一つの目標に向かって頑張る抜く力を得ることができました。

そして、頑張るからこそ本当にソフトボールを楽しめるのだということも知ることができました。部活動を通して最高の仲間、先生に出会えた事、一緒にソフトボールができたことは、絶対に忘れません。高田高校ソフトボール部は私達にとつて何よりも自慢できる部活です。

■高校バトントン部

昨年度は、アラジンの曲にあわせて日々練習を重ね、九月にマーチングバンド・バトントンワーリング三重県大会にて金賞を受賞し、10月の東海大会に出場、銀賞を受賞いたしました。コスチュームは本校の被服室をお借りして練習の合間をぬって、生徒が自身で作成したものです。素晴らしいとの評価もいただきました。今年度17名の新入部員を迎え、32

名の部員で毎日放課後に活動しております。6月にはダンスドリル選手権大会(2,3年生)、スポーツバトン協会によるバトントンワーリング大会(1,2年生)に出場するため、土日にも練習を重ねております。通常は、体育館ピロティにて練習を行っておりますが、手狭なためダンス室、外のバスケットボールコート、体育館のフロアなども時折使用させてもらっております。顧問には、新しく体育科でダンスが専門の竹屋エリ子先生に加わっていただき、体づくり、ダンスの基礎から教わることができ、生徒達も大変喜んでおります。今後の飛躍的な技術の向上を期待しております。

■高校サッカー部

部活動について

一部顧問 若林 広繁
本学西グラウンドの完成から3年が経ち、サッカー部の活動にも活気が溢れてきました。生徒達も毎日一生懸命にボールを追いかけて、汗をかくことで、充実した学校生活を送ることができています。

近況報告として、昨年度の成績は、リーグ戦3位と県選抜大会ベスト8と他クラブに比べまだまだ未熟ではあります。本学サッカー部の成績記録を更新できており、部員達のモチベーションも向上しています。

今年度県総体予選では、残念ながら2回戦で敗退してしまいました。初戦では強豪いなべ総合学園をPK戦の末破り、部員達のたくましい姿に感動を覚えました。

Ⅲ年生は進学のため1名を除き17名が引退しましたが、Ⅲ年生1名、Ⅱ年生12名、1年生24名の計37名で新チームがスタートしています。現部員達は先輩たちの残してくれた伝統を大切に受け継ぎながら、新たな成績記録を築き上げるため、チーム一丸となってサッカーを楽しみながら努力しています。本学サッカー部は、誰からも応援される姿勢で取り組む気持ち、他者を思いやり感謝する気持ち、チームの一員として何事も全力で勝ちにいく気持ち、そして生涯サッカーを愛し続ける気持ち、をチームスローガンとして活動しています。高田高校の一員としての誇りを持ち、いっそうの努力を忘れず、部員、指導者共々日々精進していきますので、今後ともご支援ご協力よろしくお願い申し上げます。

■高校軟式野球同好会

創部2年目になる軟式野球同好会は、現在、3年生4人、2年生13人、1年生7人、マネージャー1人の合計25人で活動をしています。文武両道に加え、東海大会出場を目標として意欲的に日々の練習と勉学に励んでいます。

昨年の秋季大会は4位という残念な結果に終わりました。課題の残る納得のいかない結果となつてしまっている悔しさをばねにしてより一層熱心に練習に励んできました。限られた時間の中で集中して練習に取り組む、県内にとどまらず県外の高校とも練習試合を重ね、ハードな春期合宿を乗り越え、体力、技術力、精神力を向上させてきました。

そのようなか迎えた春季総体では、1回戦の桑名高校に8対2で勝利を収め、決勝リーグに駒を進めました。決勝リーグは、各ブロックを勝ち抜いた4校で行われる総当たり戦で、第1戦は強豪の三重高校戦で、緊迫したまま試合は進みましたが、1-0で惜しくも敗れてしまいました。最後まで集中力を切らさずに粘り強く戦うことができました。

第2戦の宇治山田高校戦では、チームの波に乗ることができず、9-2でコールドゲームで敗れてしまいました。後が無いなか迎えた第3戦の伊勢高校戦は、選手の意気込みも高く、自分たちの持ち味を活かしたプレーができ、8-5で勝利を取めました。結果は、宇治山田高校と伊勢高校に1勝2敗で勝利数は並んだものの、総失点差で負けてしまい再び4位という大変悔しいものになってしまいました。

この苦い思いを晴らすために、次の夏季大会では必ず東海大会出場を勝ち取ります。

■高校書道部

高校書道部は、現在31名で月・金の放課後和気あいあいと練習をしています。

最初、半紙で基礎練習を行います。夏休みには、校内で集中練習を行い、大作に挑戦します。その後、技術の向上と他校との交流をはかるため、三重県高校文化連盟主催の合同合宿に参加します。書を愛する仲間としての絆を深めながら、切磋琢磨し、より良い作品を生みだしていきます。

昨年度より入部した高校2年生石原丈央君を紹介致します。指と腕のハシデをものともせず、彼の素直な性格と向上心は次々とすがすがしい作品を生みだしました。その書は努力の尊さと限らない可能性を我々に与えてくれ、いっしょの時間を共有できる幸せを感じさせてくれます。作品は三重県中勢地区作品展や校内文化祭に出品しましたが彼の書にたいする真摯な姿勢は、他の部員達の心の底までひびいています。

数々の賞をとる生徒はたくさんいますが、お互いに励ましあい、支えあつて、記憶に残る「佳き書」を書いていってほしいと願っています。

■高校家庭部

私たち家庭部は、女子22名、男子1名で、週2回活動しています。活動内容は、主にお菓子作りで、作ったお菓子を文化祭や寺内町まつりに「高カカフェ」として発表しています。お菓子といっても、主にパウンドケーキ、シフォンケーキなどケーキ類です。先生方のアドバイスなどを受けながら、皆で工夫して、何度も改良を繰り返して完成させます。

家庭部のコンセプトは「自分達でおいしいと納得できるまで改良したものを、自分達以外の多くの人においしいと感じてもらふこと」です。文化祭や寺内町まつりは、そのコンセプトを試す最高の機会です。そのために、お菓子の製作からラッピングまで全て自分たちで考えています。文化祭では、毎年即完売です。また周囲から「おいしい」の声が聞こえてきたり、友人から「私の分を取っ

ておいて」などと言われると、コンセプトに近づいたようで嬉しいですが、今年は、発表の場を増やし、さらに「おいしい」が聞けるよう計画中で

す。家庭部は先輩・後輩関係なく全員で楽しく活動しています。より多くの部員と関われるように、調理の際には、毎回メンバーを変えています。そのように、今まで先輩から受け継いできたものをさらによくなるよう毎年、昨年よりもさらに良い部になるよう、皆で意見を出し合います。

寺内町まつりは、初めて会う方にお菓子の説明や他のお話をする事でお菓子を通じて色々な方と関わりを深める、これも私達の目標です。値段設定などもして、全て良い社会経験をさせていたたいっています。機会があれば、お立ち寄りください。

■高校吹奏楽部

吹奏楽部は、4月より約70名で活動しています。5月27日に行われた第16回フレンドシップコンサート・イン・プラスへの出演にて3年生は引退し、1、2年生で今後の活動に臨みます。

さて、昨年度の活動といたしましては、8月に行われた三重県吹奏楽コンクール高校B編成に出演し、金賞を受賞しました。また、新しい活動として、マーチングコンテストに参加しました。マーチングは、歩きながら演奏・演技するもので、普段の演奏とは大きく異なり、練習場所も無く、大変な事も多かったです。その分達成感も大きかったです。ニューカマ部門に出演し、県代表

に推薦され、岐阜県高山市で開催された東海マーチングコンテストにも出演することができ、貴重な経験をすることができました。

今年も、多くの行事に参加し、積極的な活動をしていきたいと思えます。

■高校仏青インターアクト部

北川 大輔

高田高校仏青インターアクト部では日頃から様々な活動をしています。例えば、学校内では毎月の本山参詣のお手伝いや、寺内町の清掃活動を行っています。そして校外では、あしなが学生募金や赤い羽根募金等の募金活動に参加したり、夏休み中に行われるインターアクトの年次大会ではボランティア活動を通して他の学校と交流しています。

私が仏青部に入部しようと思ったのは、仏青部の先輩に誘われ、ボランティア活動に興味を持ったからです。この部活に入る前にも近所の清掃活動や、お祭りの手伝い等のボランティア活動に参加することはありましたが、入部してからは、それまで以上にたくさんの方に恵まれ、楽しくボランティア活動をしています。今まで参加してきた中で印象深いのは、やはり毎月行う寺内町の清掃活動です。道端に落ちていたりごみを拾って燃えるごみと燃えないごみに分別して、寺内町の環境を改善できるように努めてきました。普段何気なく歩いていると気付かなくても、皆さんのごみが落ちてくることに気付きます。そして、それらのごみを拾っ

ている時に、私達が町の役に立っていることを実感します。

これからの仏青インターアクト部では、もっと幅広いボランティア活動に目を向け、他校との交流も深めながら、充実したボランティア活動をしていきたいと思えます。そうして、小さなことでも堅実に実行して、周囲の皆さんのお役に立ちたいと考えています。

■高校漫画アニメ部

漫画アニメ部は、平日は毎日活動しています。部員達は、先輩後輩を問わず、明るく和やかに部活動を行っています。今年は新入部員が多く入り、約30名の部員をかかえる大所帯となりました。生徒達は月間誌の発行や漫画甲子園本選出場に向けて、明るく前向きに努力しています。

■高校将棋部

5月6日に高田高校で行われた第48回全国高等学校将棋選手権大会三重県予選においては、団体戦では男女とも優勝という輝かしい成績をおさめることができ、8月に富山県で行われる全国大会に6名が出場することが決まりました。

将棋部は、放課後2時間ほどの練習を毎日行っています。大会に向けて実戦中心の練習を行い、対局後についてはお互いの良かったところや、悪かったところなどを確認しながら試合で勝てることを目標に練習に励んでいます。それぞれの生徒が、本を読むながら新しい戦法を勉強するなど一生懸命練習に取り組み、中学

生、高校生の区別もなく日々楽しく練習しながら実力の向上に向け取り組んでいます。土日には他の学校の生徒たちと練習を行うなど、棋力の向上に向け努力を重ねています。興味のあるみなさんは、是非部活動を見学して下さい。

■高校俳句部

今年度も高校俳句部は、第十五回俳句甲子園出場を目指し意欲的に活動に取り組んでいます。3年生の3名と、2年生の1名が昨年の全国大会に出場し、全国の仲間たちと切磋琢磨することで、より言葉の感覚をみがくことができ、良い作品を生み出すことができるようになってきたと思えます。新たに新入生も入部し、新しい風が、部の活動をより元気なものにしてきています。

その他の活動として、昨年の冬には、上野城で吟行、また大阪の吹田東高校の皆さんや愛知県の幸田高校の皆さんの句会に有志で参加させて頂いたりしました。どれも有意義な活動だったと考えています。

また、2月には、朝日新聞の「ぶんか部物語」というコーナーで、俳句部の活動を紹介して頂きました。多くの方に部の活動を知って頂く良い機会になったと思えます。ボランティア活動等も含めて俳句を通じて様々な活動に取り組んでいきたいと考えています。

この会報が出る頃には、俳句甲子園への出場も決まっていると思えます。良い報告ができるよう部員一同ますます頑張っていきます。

短大だより

進路状況と

キャリア支援について

キャリア支援センター

平成23年度の進路状況について報告致します。

子ども学科卒業生144名の進路先は、幼稚園26名、保育園・保育施設103名、児童養護・障害者支援施設5名、企業3名、家事従事等7名でした。幼稚園教諭・保育士の専門職としての就職者は90%を占め、例年通りの高い率となっています。

五回生29名が卒業した人間介護福祉学科では、就職者は老人介護施設15名、障害者支援施設4名、企業等5名で、進学者は四年制大学編入学2名、専門学校入学1名で、その他は2名でした。

毎年一般企業への就職者が大半を占めるオフィス情報学科の卒業生71名の業種別による内訳は、建設業1名、製造業6名、運輸・情報通信業7名、卸小売業16名、金融・保険業5名、医療・福祉15名、サービス業等12名、専門・技術サービス業1名

で、他は四年制大学編入学1名、同研究生2名、その他5名でした。

子ども学科関係への求人数は、553件(昨年611人)、人間介護福祉学科関係へは524人(昨年395人)、オフィス情報学科関係へは426人(昨年715人)となり、求人数から見ますと、一段と一般企業への就職が厳しい状況となっていることが分かります。

5月15日に公表された国の就職内定状況調査(4月1日現在)の結果では、今春卒業した大学生の就職率は93・6%で、昨年の91・1%より2・5%改善しました。10月1日現在の数字は昨年度より2・3%改善しましたが、ここ15年間では、二番目の低さとなっています。

4月1日現在の短期大学生(女子のみ)に関しては89・5%で、昨年より5・4%改善しました。来年度3月卒業予定者に対しての民間企業の求人については低水準で、各企業の採用意欲は依然として厳しく、景気の回復感乏しいと予想しています。

今のところ、本学の就職率は各幼稚園、保育園、施設、企業、高田学苑関係者の皆様方のご支援のお陰で

高い水準を維持できております。しかしながら、昨今の欧州の経済不安や円高により、景気後退感が強くなるのではと心配しております。変化の激しい社会情勢においても、高短生の進路希望が実現できますよう、学生一人ひとりに応じたきめ細かなキャリア支援に引き続き努めたく存じます。

昨年、本格運用された高短キャンパスネットは、学生や教職員によって求人情報や受験結果報告などの検索に利用され、その重要性が増しています。今後、さらに情報が蓄積され、高短生のキャリア支援に大いに役立つものと期待されています。

5月中頃からは卒業生の進路先を教職員が訪問し、卒業生一人ひとりへの激励と来春の求人の依頼を行っています。

学苑同窓生の皆様におかれましても、今後も高短生の進路希望実現のため、ご協力、ご助力の程、よろしくお願い申し上げます。



短大部会だより

北端 一子

先日、「先生、久しぶり」という声に振り向くと、二十歳を過ぎた卒業生が立っていた。名前をすぐに思い出すことが出来ない。しかし、幼稚園に在園していた時の様子は、すぐに思い出す事が出来たのである。

私の様子を見て、名前を覚えてくれた。名前を思い出せなかったことを謝り、お互いの今の様子を話し合った。祖母にとってもかわいがられていた覚えがあったので、祖母の様子も聞くと元気であるとのこと何よりである。よかった。不思議なものである。

幼稚園生活での様子をすぐに思い出したのに名前が分からないとは？年のせいとは言いたくない。

さて、短大部会の活動は、短大部会だけの役員会を年三回と樹心同窓会の役員会二回と総会であります。短大部会からの総会参加者が少ないことは、とても残念に思っています。私も役員にならない限り参加するということとはなかったの言えないのですが、立場変わると・・・ということでしょうか？

今年度から新しく役員が増えて、

にぎやかに第一回の役員会を高田短大会議室で五月十一日午後七時からありました。お互いの情報交換をし

ながら進めていきました。今の乳幼児教育の現状と乳児の入園希望者が増えていること、育児の不安を持つ母親が増えていることなど、安心して育児ができる社会になってほしいと願わずにはいられない気持ちになりました。

今年度も継続事業をしていこうという事で、各理事に渡す書類の確認と高短祭への参加について話し合いました。今年の高短祭は、金曜日午後から始め、土曜日で終了となるようです。まだ詳しいことが決定されていなかったので、今までの参加ができるか不安ですが、準備だけはしていこうということになりました。

学習時間を確保しなければならぬためのようで、国の政策によって変わってきたことでしょうか？ ゆとり教育の反動でしょうか？ 知力低下がいわれている事も原因でしょうか？

短大部会の活動が、同窓生の集まりに少しでも援助できるように、これからも進めていきますので、ご理解とご協力をお願いします。

国際交流委員会

メルボルン姉妹校との国際交流

国際交流

本年度で、この国際交流プログラムの第18回目を迎えることとなった。3月16日から30日までの期間、オーストラリアのメルボルンにあるパレードカレッジとセントモニカズカレッジに留学、そしてホームステイを行った。今年には6年コースより18名、3年コースより11名、計29名の生徒と4名の教員の引率で実施した。

本年度は、引率教員全員が初めての訪豪であり、若干の不安もあったが、高田高校そして姉妹校の国際交流スタッフの援助もあって、非常に充実した研修となった。特に姉妹校での授業参加においては生徒同士の交流も多く行われ、メルボルン市内の自由散策やサーフィンなどオーストラリアならではの実習を通じて大変貴重な経験を積むことが出来た。

この行事が、これまでにこの国際交流18年の歴史に関わっていただいた多くの方たちの知恵と実績があったからこそのものであることをひしひしと感じた。

我々がパレードカレッジに登校した日の対面式で、校長先生がその挨拶の中でパレードカレッジの生徒に対して、「君達がもしこの国際

交流で日本を訪れたときには、神様のようなもてなしを受けることになりません。」と話された事が非常に印象に残った。こういった「もてなしの心」が徹底されていたこともあって、ホームステイ先においてもホストファミリーのみなさんからの心からのもてなしを受け、とても充実した楽しい時間を過ごすことが出来た。

今回の引率であらためて感じたことは、この国際交流プログラムは観光旅行ではなく、異文化交流であるということである。学校や家庭や訪問した場所などで交流した多くの人々から日本に関するいろいろな質問を受けた。それらに、拙い英語で電子辞書を駆使しながら必死で答え、コミュニケーションをとったことは、最高の経験であり、言語間の違いがあっても気持ちを通じ合うことができることを学んだ。そのことに気づいた生徒達が、日を追うごとに互いに積極的に声を掛け合いながら交流を深めていく様子が見られた。高校生のうちにこういう経験ができるのはとても素晴らしいことであると改めて感じる事が出来た。そして、ネイティブの人たちと実際にコミュニケーションをとることが英会話の上達に繋がる最も良い方法であることを改めて実感した。

また、自分のしたいことや、考えていること、思っていることをきち

んと相手に伝えることの大切さを肌で感じた。日本では、周囲の人間があれやこれやといる気遣ってられることが多いが、オーストラリアでは何も意思表示がなければ、そのままの状態でもいいという意思表示に慣れてしまっている我々にとっては、このことを知るといい学習機会である。一部に不満を感じている生徒もいたようであるが、これが世界標準であり、自身の考えをしっかりと伝えることの大切さをぜひ知ってもらいたい。

オーストラリアは日本と違ってのびのびとしており、一人一人がゆとりマイペースに生活している。休みの日などは家族でのんびりと過ごしたり、自分の趣味に打ち込んだりして過ごす人が多く、この点は非常にうらやましく思った。一方で、自分自身の目標に向かって取り組む姿勢は非常に真面目でしっかりとおり、自身で時間管理もしながらひたむきに取り組む様子が見られ、実現に向けての意志を感じた。この交流で得た経験を、参加者全員が今後の日本の生活に活かしてくれることを望むとともに、今後より多くの生徒がこの交流に参加し、貴重な経験を積み重ねていくことを期待する。

会員だより

昭和二十五年三月、高校卒業の学年同窓会を開催

昭和十九年四月、中学校入学、同

二十四年三月、中学校(旧)卒業、

同二十五年三月、高校卒業の学年同窓会を平成二十三年十一月二十二日、ホテルグリーンパーク津で開催しました。平成二十三年度高田学苑

樹心同窓会総会出席の同志十四名が世話人となり準備。

私たちは中学校在学中に終戦となり、学校制度の過渡期で修業年限五年制の高田中学校を卒業した者が1/3続いて現行の高田高等学校を卒業した者が2/3でありました。数え年の傘寿を過ぎ満八十歳以上(誕生日により年度内に満八十歳)の高齢者の集いです。これまで幾度か学年同窓会を開きましたが今回で最終回にする案内したところ、体調不良で欠席の返信が過半数届きました。出席回答者二十三名のうち三名が当日近くに欠席連絡あり二十名の参加。健康上奥様附添い出席もあり皆が感動しました。新グラウンドを含めて校地には緑が少ない状況を考えて記念植樹の意見、出る。しかし、他の学年クラス会からも植樹の

申出が学校へあれば場所とか維持管理上、困るから同窓会全体で記念植樹が好ましいという意見にまともになりました。在校当時は学校敷地に枝を周囲に張った威勢のよい松の木が何本もありました。懇親会は終始和やか賑やかで在校当時の話から近況報告などに花が咲き、お酒を飲む程に元気に満ち溢れ盛会のうちに進行。八月の同窓会総会には挙って参加することと会長を強力に支えて高田学苑樹心会同窓会の発展を互いに約束して閉会しました。

(幹事 奥山和夫 記す)



平成23年11月22日 高田学苑昭和25年卒学年同窓会 於 ホテルグリーンパーク津

こと 教育実習生より

関西大学 野崎 ひとみ

私は今回、母校である高田高校で三週間の教育実習をさせていただきました。学生時は大変お世話になりました。先生方は熱心な指導のおかげで、無事受験を乗り越えられ、高田高校は自分とは切り離せないとても大きな存在です。今回実習させていただくにあたりお世話になった市川先生は、私が進路を決めていく中で、本当にお世話になった方です。先生には、二年間世界史を教えてくださいました。私が現在、関西大学へ入学し、歴史学を専攻しているのも、市川先生の影響がとても大きいといえます。私も市川先生のように興味があつてゆくと世界史の授業をして、自分のように世界史の面白さに気づいてくれる生徒を生み出したいという強い思いで、教職課程を選択しました。このことを強く意識して、教育実習に臨みました。実習生として教卓の前で授業を試みて、教師の立場から生徒をみる事ができました。自分では、十分理解している内容も、教えるとなると

大変難しく、また、生徒の様子を見ながら進めていくには、経験を積んでいく必要があることを肌で実感しました。自分の授業は、先生方の授業と比べると、まだまだ不十分で、改善点や課題がたくさんあります。忙しい中、わざわざ私の授業を見に来てくださった学苑長先生をはじめたくさんの方、指導教諭として指導案づくり、授業づくりを力貸してくださった市川先生。みなさんからいただいた多くのアドバイスを今後どう活かすかは自分次第です。三週間の実習を通して、たくさんの生徒とふれ合い、教師の夢を追いつづけようと心に決めました。

橋本由貴

私は、音楽の教師を目指しており、高田高校に教育実習に来させて頂きました。初日からホームルームを任せて頂いたのですが、教壇に立つてクラス全員の注目が私に集められた時、鳥肌が立ちました。授業は五回しかありませんでしたが、生徒から反応をもらえたり、一緒に授業を楽しむ事ができて、教師という仕事の魅力を再確認できました。この実習で私は先生方の十分の一の仕事もし

ていないと思います。本当の大変さはわかりませんが、今回、先生の仕事の多さと、忙しさを身を持って体感し、とても良い経験ができました。担当の先生にもとても親切にして頂いて、生徒も未熟な私の授業に最後までついて来てくれました。感謝の気持ちでいっぱいです。来年、音楽教師として教壇に立てるよう、大学に戻っても頑張りたいと思います。

平成23年度退職教職員

桜横田青小伊中中佐長阿伊武今市樺福池采	長無堀草前佃	植
井山上木川藤村川藤岡部藤田井田島島村	川藤内深村	宗
貴直昌光幹千智千	次明 京治	真大
代	代博光子美薫	
臣子志映夫子子代完		

訃報

松岩中別富荒宇鷺菊平大北吉藤松菱林川三實別林都仲岡荒鈴岡水藤	嶋中山所森木野津地松藤松川岡樹井	西谷義所	築村本木木田谷田
晃優網睦 彬 雅敬三博正文大黎龍雅忠 俊英健敏克三 一佐	太郎樹庸郎紘次宏子子則文行九淳二生亮儀昭純生 一明己樹恒夫	清太郎	
(H17) (S35) (S32) (S32) (S31) (S30) (S29) (S28) (S26) (S25) (S24) (S20)	(S21) (S20) (S19) (S18) (S18) (S17) (S15) (S11)	(S5)	(S5旧中卒)
猪倉村松前堀西杉下阪近紀乙江岩飯東御市赤國府谷	木岡赤中	須崎	霜
木田林岡川 村 井倉藤平部藤田田出給川塚 京 尚隆 恵和 林太郎	三樹一一功	治	
(S50) (S42) (S41) (S41) (S41) (S41) (S41) (S41) (S41) (S41) (S41) (S41)	(S41) (S41) (S41) (S41) (S41) (S41) (S41) (S41) (S41) (S41) (S41) (S41)	(S25)	(H10中6卒)

田中和磨先生 瑞宝小綬章ご受賞

事務局日より

高田学苑の教育、私学教育の振興による教育功勞で平成二十三年秋の叙勲において瑞宝小綬章をご受賞されました。本年二月七日に先生のご受章をお祝いして学苑、同窓会の共催で盛大に祝賀会が開催されました。因に、田中和磨先生と同様の叙勲受章者は次の皆様です。いずれも元公立高校長で教育功勞によりです。括弧内の数字は受章年です。

佐脇功様(平成十六年) 高松連丸様(平成二十一年) 篠原寛様(平成二十二年)

なお、公衆の利益を興した功績により藍綬褒章の受章者は次の方です。

平松敏様(平成六年) 大橋達郎様(平成二十三年)

以上、生存会員で事務局において受章を把握している皆様です。漏れている場合はご容赦いただきますとともに事務局へ連絡をお願いします。